

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2372201182
法人名	株式会社エイム
事業所名	グループホーム 森の家
訪問調査日	平成21年3月12日
評価確定日	平成21年4月14日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月14日

【評価実施概要】

事業所番号	2372201182
法人名	株式会社エイム
事業所名	グループホーム 森の家
所在地	一宮市森本一丁目12-12 (電話) 0586-25-5550

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成21年3月12日	評価確定日	平成21年4月14日

【情報提供票より】(平成21年2月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	14年12月27日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	29 人	常勤 17人, 非常勤 12人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000~50,000 円	その他の経費(月額)	35,800 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	640 円
	夕食	550 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成21年2月23日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名	
要介護1	2名	要介護2	6名			
要介護3	4名	要介護4	5名			
要介護5	1名	要支援2	0名			
年齢	平均	87歳	最低	64歳	最高	99歳
協力医療機関名	野村医院					

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

株式会社エイムは県下に4つのグループホームとショートステイを運営している。その事業の一つであるグループホーム森の家は、住宅地の中にあり2階建ての建物である。法人の理念である「アットホームな介護」を掲げており、ホームは家庭であり一緒に暮らす入居者や職員は家族という意識を持ち、入居者に寄り添うことを大切にしている。職員は昔の大家族のイメージで一人ひとりにあった生活ができるよう支援している。代表者は入居者が重度化しても家族の一員として、できることはしてあげたいとの思いがあり、ホームに看護師を置いてターミナルケアを行なっている。子どもを連れて勤務している職員がいるので、子どもやホームで飼っている犬が入居者の癒しになっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価について管理者とチーフで話し合い、できることから取り組んでいる。災害時の備蓄品を用意したり、託児所の子どもの訪問や全家族参加の行事への計画を検討している。理念についてはまだ地域密着型サービスや事業所独自の理念になっていない。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員が取り組み、各ユニットのチーフが取りまとめた。「自己評価をすることで自分がやるべきこと、気をつけることなど分かり意識の向上になった」という職員の声もあった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	入居者代表、家族代表、町内会長、民生委員、管理者、チーフが参加して2~3カ月に1回開催しているが、今年度は開催が少ない。会議では事業所の様子、外部評価などの報告や認知症、感染症、虐待などの説明を行なっている。また、メンバーから質問や意見、助言を受けてサービスの向上に努めている。議事録を玄関に掲示しているのでいつでも見ることができる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会はないがホームの行事に参加する時に、苦情や要望など聞く機会がある。また、職員は家族の訪問時に気兼ねなく話やすい環境づくりに努め、意見や要望など聞いている。苦情相談窓口については契約時に説明を行ない、玄関にも掲示し意見箱も設置している。今後はホーム全体で家族参加の行事を行ない、家族同士の交流を深めていきたいと考えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入し地域の情報は回覧板や運営推進会議から得ている。カラオケ大会や祭りなど地域の行事に参加している。散歩時に挨拶を交わし、公園では子ども達や地域の方との交流に努めている。読み聞かせや大正琴、太鼓などのボランティアの訪問があり、地域の人にも来てもらえるようにホーム入口に案内を出している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念である「入居者の方のライフスタイルを大切に、個人個人にあったアットホームな介護支援の実現に貢献します」を理念に掲げている。昔の大家族をイメージしており、家族の一人として気を遣うことなく、その人らしく心地よい刺激のある生活が送れるよう支援することを目指している。		地域密着型サービスの意義を職員はよく理解しており、地域との関わりも積極的に取り組んでいる。今後はホーム独自の理念を創り、地域密着型サービスとしての役割、地域との支え合いについて織り込むことを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念である「アットホームな介護」を玄関や居間など目につきやすい場所に掲示している。理念について連絡帳に記載したり、ミーティングの中で状況に応じて話しをするなど、意識づけをしている。職員は常に家庭的な雰囲気の中で入居者一人ひとりが、その人らしい暮らしができるよう理念を念頭に支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し回覧板を通して地域の情報を得てカラオケ大会や祭りに参加している。町内はだか祭りの出発式に行き、皆で写真撮影し頂いたなおい布をベッドに付けている入居者もいる。散歩時には挨拶を交わし、近くの公園で子どもや地域の人と交流を図っている。ボランティアの読み聞かせや大正琴、太鼓などの訪問があり、地域の方にはホーム入口に案内を出して参加を呼びかけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をするにあたり管理者は、「分かるところから書いて、書くことで色々見えてくる」と職員に伝え、全員で取り組み各チームが取りまとめた。職員からは「自分がやっていくべきこと、気をつけていくことが少し分かった」との声もあり、ケアの見直しや振り返りのよい機会になっている。前回の評価結果については回覧し、管理者とチームで話し合い改善に向けてできることから取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2~3カ月に1回、入居者代表、家族代表、町内会長、民生委員、管理者、チーフ参加のもと開催している。会議では事業所の様子や外部評価などの報告、認知症、感染症の話をしたり、一緒に行事に参加するなど行なっている。メンバーから地域の情報や質問、意見、助言などを受けサービスの向上に努めている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は報告や相談することがあれば訪問し、事業所の様子を伝え情報収集を行なっている。また、市の窓口パンフレットを置いてもらっているため、毎月訪問している。地域包括支援センター主催のケアマネ会や社会福祉協議会で行なう説明会などにも参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	2カ月に1回、現状報告として身体状況、食事、行事、睡眠、ホームでの様子、その他など職員が詳しく書いて家族に送付している。家族アンケートにも「細かなことが分かってとても良い」と高い評価を得ている。また、家族の訪問時にも職員は日頃の様子を伝えており、体調の変化や何かある時はその都度電話で報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カラオケ大会や誕生会など家族が参加する時に苦情や要望など聞く機会がある。また、職員は家族の訪問時に気兼ねなく話しやすい環境づくりに努めている。苦情相談窓口などについては契約時に説明し、玄関にも掲示し意見箱も設置している。今後はホーム全体で年に1回、全家族参加の行事を行ない、家族同士の交流を深めていきたいと考えている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は休憩時間の確保、希望に添ったの休日、定期的な親睦会、職員同士が話しやすい環境づくりなどに努め、離職を抑える工夫をしている。入居者には退職者について話をせず、新しい職員を紹介している。新人職員はチーフやベテラン職員に2週間~1カ月ほど教えてもらいながら付き添い、入居者に不安やダメージを与えないよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は外部の研修会や資格試験の情報を職員に提供し、参加する時は勤務に配慮をしている。外部研修に参加した後は、資料を回覧し情報を共有している。日常業務の中で介助方法について、疑問に思ったことや分からないことなど、職員同士で教え合い、時には看護師を交えてスキルアップを図っている。		研修会に参加したり、職員同士で日々働きながら学びにつなげている。今後は各自の立場、経験や習熟度の段階に応じた研修計画が作成され、様々な研修会に積極的に参加されることを期待したい。また、職員の質の向上にむけ、事業所内で勉強会などを行なうことも期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県認知症グループホーム連絡協議会に加入し、研修会に参加することで他の同業者と交流を図り、意見交換や情報収集をしている。法人内の他施設の入居者と手紙のやり取りをしている入居者がいるので、職員は互いに届けている。また、入居者がホームにあそびに来ることもある。管理者は電話や訪問をして情報交換を行なっている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談の後にホーム見学に来てもらい様子を見ていただく。できれば本人と一緒に来ておやつや食事を入居者と共に食べてもらい、少しでも雰囲気慣れてもらうよう工夫している。その後、管理者、チーフが家庭訪問し、生活歴や家庭環境などアセスメントを行なう。お試し入居はあるがそのまま入居されるケースが多い。入居直後は安心して過ごせるように家族の協力を得て面会を多くしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で洗濯物干しやたたみ、おしぼり巻き、芋の皮むき、つくしのはかま取りなど、できることを職員と一緒にしている。人生の先輩である入居者から行儀作法や郷土料理など教えてもらい、共に支え合う関係を築いている。また、職員は「ありがとうね」「気をつけて帰りゃあよ」など入居者から言葉をかけてもらい、励みになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員はゆっくりと話をする時間をつくり、コミュニケーションを取りながら入居者の思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、表情や全身での反応で理解し、家族に聞いて本人本位を心がけている。職員は日々の暮らしの中で分かったことを記録し、気づいたことチェック表を作成し、センター方式シートを活用するなど情報収集している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>3か月に1度、定期的に管理者、チーフ、ケアマネジャーで担当者会議を行なっている。事前に職員から回ってくる提案書からの情報も収集し、それをもとに会議にてモニタリングを行い、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>計画の定期的な見直しは3か月ごとに行っている。3か月に1度のサービス担当者会議でモニタリングを行ない、介護計画の見直しや現状について話し合っている。また、入居者に変化が生じた場合は、チーフに報告して話し合い計画の変更が必要な場合はすぐに対応している。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>希望者は訪問マッサージを週1~2回受けている。入居者が入院した場合、見舞いをかねて状況の把握をし、関係者から情報収集することで退院後の対応に備えている。入居者の好みの美容室への送迎は、家族からの依頼があれば支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昔からのかかりつけ医を希望される入居者には、可能な限り家族で送迎してもらうようお願いしているが、希望があれば職員にて通院の支援をしている。その場合、職員は入居者の情報を家族より聞き把握している。ホームの提携しているかかりつけ医の往診は入居者により、月1~2回受けており、歯科医の往診も随時対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した時における指針を示し、家族、医師、ホームで協議したうえで、方針を決定している。ホームは、できる限りの支援、「グループホーム森の家」という家庭の中で最後まで看取りをしたいという指針に基づき、過去に数名看取られたことがある。職員の中に看護師がいることや夜間、土、日曜日は訪問看護を利用し、24時間体制で対応を可能にしている。また、医療機関とも密に連携をとっていることなどが入居者、職員の安心に繋がっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者の個々を尊重し、一人ひとりの誇りを大切にし、信頼関係を築くため、日々言葉遣いには注意を払い努力している。記録や個人情報の取り扱いに注意し、ファイルの内容が外部者や入居者に見えないよう気をつけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、なるべく本人のペースを大切にし、一人ひとりの状態や思いに合わせることを基本にしている。自分で裁縫道具を管理し、居室で縫い物や編み物などを楽んでいる入居者もいる。また、喫煙は決まった時間、場所で職員が傍らにつき楽しんでもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に昼食、夕食のメニューの希望を聞き、当日メニューを決めている。また、誕生日会など、行事の食事でも季節感を出せるよう工夫している。朝食はご飯、おかゆ、パンと選択でき、コーヒーを好まれる入居者が多いため、コーヒーメーカーを置いて、常にコーヒーを飲める状態にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴日は、1日おきで時間は午前10時30分～15時30分と決まっているが、入居者の希望に応じた入浴支援をおこなっている。体調により状況に応じて、清拭、部分浴の支援もしている。季節により、ゆず湯等、入浴に変化をもたらし、楽しんでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で入居者との会話の中から、本人のできること、得意分野などを職員が聴きだし、一人ひとりに合った楽しみや、できることをしていただけるよう支援している。料理の得意な方には食事の準備を、電気関係の得意な方にはコンセントのねじ締めなどお願いし、職員と一緒にこなしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの外出の希望に対応できるよう努め、買い物の支援等をしている。遠足で動物園に行ったり、市のバスをチャーターして遠出もしている。また、車イスを使用している入居者も外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜、夜勤の職員が行う。人の出入りは各ユニットの入り口にドアリンが付けてあり、玄関はドアチャイムが鳴るようになっている。昼間の施錠はしていない。外へ出て行こうとする入居者には、日々の行動を把握し、職員の見守りの中、外出している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員、入居者における昼間の避難訓練を年1回実施している。フロアには災害マニュアルを掲示しており、職員は日々の中でも災害に対する意識を持って支援している。近くの公園を避難場所として、避難経路を把握している。備蓄品の確保もされている。		夜間訓練の実施の取り組みを期待したい。訓練の際、近所に参加の声かけをしたり、地域の協力体制を得られるよう期待したい。また、廊下両側に置かれたソファが避難時の際、妨げにならないよう配置場所の工夫も期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を表または介護記録に記入し、主治医に確認をとっている。入居者によっては、食事内容の変更(油、卵、肉の制限あり)、経腸栄養剤(エンシュアリキッド)など、栄養補給など主治医の指導のもと支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が横になれるソファがリビングダイニングの壁一面に設置され、普段はそこに座り、眠くなれば横になり、居心地のよい団欒の場となっている。廊下にもソファが置いてあり、各居室に行く途中休憩したり、入居者の家族の訪問の際、使用している。リビングダイニングには大きな丸いテーブルがあり、入居者の様子がよく見渡せ大家族で食事をしている雰囲気をつくっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と家族の希望があれば、以前使用していた家具を利用し、家族の写真を飾ったりしている。各居室にはエアコンが設置してあり、カーテンも男性はブルー系、女性はベージュ系のものを備え付けてある。本人の希望により、毎日位牌の水の取替えも行い、居心地よく過ごせる雰囲気をつくっている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。